

誰もが人間として生きていくうえで  
侵すことのできない当然の権利  
これが『人権』です

山都町人権を考える町民の集い

12月8日(木) 矢部保健福祉センター1千寿苑において山都町人権を考える町民の集いを開催しました。  
本集いでは、町内小・中・高校生による人権作文の発表と環境教育事務所COT主宰である岡本工介さんによる「差別をなくすから、手をつなぐ」へ」と題した講演がありました。

子どもたちの人権作文は、人権学習や生活の中で、人権に関する思いなどが発表されました。



講演される岡本さん



人権作文発表の様子

講演では、岡本さんが大阪府高槻市で取り組まれている社会的包摂のまちづくりについて話されました。  
集会参加者は、子どもたちの作文発表と講演をそれぞれに自分の思いと重ねながら聴かれており、人権の重要性について改めて考える1日になりました。

子どもたちの人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文を1・2月号でご紹介します。今月は3名の作品を紹介します。  
(今月は矢部小 本寫剛仁さん 御岳小 品田暖月さん 清和小学 折尾萌愛さん 尾萌愛さんの作文を掲載し、来月号には 矢部小 井上栗那さん 清和中 橋口紗也加さん 矢部高 岡崎真実さんの作文を掲載します。)

「ぼくのランドセル」

矢部小学校

1年

本寫

剛仁くん



ろうくんが、ポンきちくん「おれのかつもいれとけ。」とめいれいしたのが、だめとおもいました。ポンきちくんが、ポンタくんのランドセルを「なんだ、ポンタのか。あいつは、おれより、けんかもよわいし、べんきょうもへただし。」と、いって、けつたのがだめとおもいました。

ぼくのランドセルは、かぞくみんな、かいいいきました。ぼくのすきなちやいろにしました。からうところが、きにいつています。おかあさんが、「ともだちをたたくさんつくつて、べんきょうもがんとおもいました。」

ぼってね。とおもってかつたよ。」とおしえてくれました。とてもうれしかったです。ところがきもちよくありません。

だから、ぼくもランドセルをけられたら、とてもくやしいです。ぼくは、いやないいかたをされて、とてもくやしかったことがありません。なみだが、いっばいでました。そのとき、「ぼくには、ちゃんとなまえがある。いわんで。かぞくがかんがえてくれたなまえがある。」と、いきました。

まえは、ないいいきらんだつたけど、こんどは、いいました。ちゃんといえて、すつきりしました。

いやなことがあつたら、ともだちとはなしあつていのが、いいです。

これからも、ともだちとなかよくあそんだり、べんきょうをがんばったりしたいです。

「わたしも友だちをたすけたい」

御岳小学校

2年

品田

暖月さん



わたしは、がつかつでわたしののれるようになりたいたをべんきょうしました。

くんは、びよんこちゃんに、「びよんこちゃん、へたくそ。」と、言つてわらいました。ねこのペルちゃんは、「あつちに行つてよ。じゃまだから。」と、つよく言いました。くまのくろちゃん、「そうよ。そうよ。」と、言つたことが三人ともつづけて、言つたのがいけなと思ひます。なぜなら、三人で一人をせめるのは、三たい一にわかれるからです。それを見ていたぼうちやんとぼんきちくんもちよつとわるいと思ひます。だつて、大切な友だちなら、たすけることもできると思ひます。わたしもこうなつた時は、もちろんありあす。一年のころで、四回ぐらいいりました。でも友だちが近づいてきて「だめでしょ。いじめちゃあ！」と、言つてくれたのでうれしかったです。よく言えたなあと思ひます。わけは、友だちがこまつていたら、たすけに行かなくちゃと思つていからすごいです。わたしも、いっばい友だちをたすけて「ありがと

う。」と言われるようになりたいです。

この気もちは、何年たつてもわすれないようにします。

「ハリストで学んだこと」

清和小学校

5年

折尾

萌愛さん



一学期の最後の人権学習の最後の時間、先生が、「こんなふうにおかしいと思つたことに對して、

命がけでたつた人たちが、身近なところにもいます。知つていますか。」と、言われました。でも、私は、何も知りませんでした。その答えを知るために、私たちは、二学期の人権学習で、矢部の人権センターに行きました。

話を聞きながら、おかしな思つたことがたくさんありました。何も悪いことはしてない、いじめる理由もない、ただそこに住んでいて、ただで、差別を受けることの意味がどうしても分かりません。自分の生まれつた所の名前が言えないなんて、おかしなです。だけど、そうさせたのは、周りの人たちの心です。何も分からずに差別する、本当のことを知ろうともしないで、差別す

る人間の心が、そうさせていることを知りました。でも、そんな中でも、自分たちの気持ちを分かつてもらつたために、命がけでハリストをしていった人たちは、すごい勇気のいる行動だつたと思ひました。あるおばあちゃんが「私たちは、まともに生きてきた。何もはずかしいことではない。ちがう目で見る人がおかしな。正しいことを知つてもらわなくちゃいけない。」と言われた言葉がとても心にやきついてきます。一学期、水俣の学習をした時、命がけで訴えていった人たちの行動と矢部でのハリストの行動は、とても重なるところがあつました。話を聞かたに、私も腹がたつてきました。

人権センターでの現地学習で、今まで以上に、差別はぜつたいいけないと思ひました。でも、いまだに差別はあります。あつています。する人がいます。きつづく人がいます。差別は許されません。私たちが、クラスでも「今、一番伝えたいこと」というテーマで、自分自身や学校のこと、家族のことをふり返り、作文を書き、発表しあいました。今まで気づかなかつた友だちの思いやはじめに知つたことなどがたくさんありました。

友だちが自分の弟のことを「みんなと少しちがう」と言つていたけれど、それは、関係ないと思ひ

し、美絵ちゃんもみんなとちがうと思ひなくていいと思ひます。まーくんはみんなとかわりないです。逆にちがう目でみる人のほうがおかしなです。もし、わたしが美絵ちゃんと同じ場所について、だれかがまーくんをちがう目でみる人がいた時に、私はおかしなことに對して、おかしなと思ひます。私には、おかしなと思ひます。

私は作文発表を終えて、心がすつきりしました。みんなが今思つていふことをしつかり伝えて、それを受けとめたみんなが伝えてくれた人にしつかり返してたいからです。わたしも自分が伝えたいことを言つて、友達が感傷を返してくれて私の気持ちを分かつてくれたので、言つてよかつたなと思ひました。この作文発表でみんなが本音を出しあつたので、今までよりもつよい仲間になれたと思ひます。しかし、この作文発表でこれから変えていかなければいけないこともたくさん出てきました。

今までの自分は見えてみぬふりをしている人々にていました。おかしなことに對して何も言えなかつた自分がいやでした。ハリストで学んだことをこれからの自分にかしていきたくいです。言うだけじゃかわらないので、変えていけることから、できることから、行動していきたくと思ひます。